



愛知県立美和高等学校

新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)

2025年度(令和7年度)実施報告書【第3年次】

We're



美和



地域と自分の美しさを知り 人と人の和の力で 未来を拓く生徒を育む

みわこう マ イ ン ド  
美和高 Makes Innovators with Neighbors Dramatically

～地域とともに 未来を革新する人材を育てる～

愛知県立美和高等学校  
校長 横銭 淳一

本校は愛知県西部、名古屋市に隣接するあま市にあります。あま市は、名古屋市のベッドタウンとして発展してきた一方、飛鳥時代が起源とされる甚目寺観音などの古刹、戦国武将の福島正則や蜂須賀小六の出生地、尾張七宝をはじめとする地場産業など、歴史と伝統が息づく地域でもあります。このような環境の中にある本校は、「地域連携」を学校の運営方針の軸として捉え、地域との交流を深めてまいりました。この取組が契機となり、令和五年度に文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業」（普通科改革支援事業）の指定校となり、令和七年度に「地域探究科」を開設し、一期生四十名が入学いたしました。

ここに至るまでの道のりは決して平坦なものではなく、特に「地域探究科」の周知に関しては、大変な苦勞がありました。「地域探究科」という存在を知っていただくところから始まり、何をどのように学ぶのか、普通科との違いは何か、卒業後の進路はどうかなど、中学生やその保護者、中学校の先生に丁寧に説明する必要がありました。従来の説明会や体験入学だけではなく、市役所や図書館などに地域探究科紹介のリーフレットを置いていただいたり、地元のラジオ番組に出演して宣伝したりと、あらゆる機会を捉えて広報活動を続けました。その結果、秋の進路希望状況調査ではわずか二名の希望者だったところから、最終的には四十名の定員を充足することができました。昨年度まで本校校長であった伊奈和彦先生をはじめ、多くの方々のご尽力のおかげと感謝しております。

本年度は、「美を知る一年生」ということで、地域の課題に関する七つのテーマについて探究学習を行いました。これに関しては、あま市役所をはじめとした地域の関係機関や地元企業、地域住民、連携大学などの協力が不可欠でしたが、本校の教育活動にご理解がある方ばかりで、皆様快く引き受けてくださいました。またそれぞれのテーマのまとめとして行う成果発表会にも参加していただき、生徒にお褒めや激励の言葉をかけてくださいました。学校の先生以外の「大人」とコミュニケーションを取りながら探究学習を進め、その「大人」に認めてもらうという経験により、生徒は自分がやってきたことに対して自信を深め、より意欲的に探究学習に取り組むようになりました。また皆様の手厚いサポートは、本校にとって大きな財産であると考えております。この場をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今後探究学習をさらに充実したものにするために重要なこととして、「課題の設定」が挙げられます。一年次は、様々な視点から地域の課題を考えることを主眼として、教員が設定したテーマに対する探究活動を実施しました。来年度は「和をつくる二年生」として、生徒主催の地域イベントを計画しています。「イベントを成功させるためには何が必要か」を起点として、地域の抱える問題点や活性化のために必要なことなどを、生徒自らが「問い」として立てることがねらいの一つです。そして「未来を拓く三年生」として、生徒一人一人が興味をもったテーマについて探究することで知識や経験を地域に還元する準備とし、将来は地域の未来を拓く担い手となって活躍する人材の育成を目指してまいります。

三年間にわたった本事業は一つの区切りを迎えますが、本校はこの大きな目標に向かってこれからも進んでまいります。これまでご支援、ご協力をいただいた皆様に改めて感謝申し上げますとともに、今後も本校及び地域探究科の教育活動の充実に向けて、忌憚なきご意見を頂戴したいと存じますので、よろしくお願いいたします。

# 新時代に対応した高等学校改革推進事業 実施報告書 目次

## 巻頭言

## 第1章 学校の概要と本事業に係る本年度の計画

### 1 本校の概要

- (1) 所在地
- (2) 設定課程および在籍生徒数
- (3) 学校経営方針

### 2 地域探究科

- (1) 設置の目的
- (2) 地域探究科の特色・魅力
- (3) 地域探究科での先進的な教育取組
- (4) 地域探究科 事業構想(ビジュアル資料)
- (5) 過年度成果概要図(令和5年度・令和6年度)

### 3 事業の実施計画の概要及び本年度の計画

- (1) 3ヶ年の実施計画の概要
- (2) 本年度(令和7年度)の計画の内容

## 第2章 実施計画に基づく事業実施報告

### 1 地域探究科の取組

- (1) 地域探究科カリキュラム
- (2) 学校設定教科「地域探究Ⅰ」及び「総合的な探究の時間」の取組
- (3) ルーブリック及び評価

### 2 普通科「総合的な探究の時間」での取組

- (1) 普通科1年生での「総合的な探究の時間」の取組
- (2) 普通科2年生での「総合的な探究の時間」の取組

### **3 大学との連携**

- (1) 星城大学訪問
- (2) 名古屋学院大学訪問
- (3) 名古屋文理大学訪問
- (4) 愛知大学訪問
- (5) 授業における大学との連携

### **4 運営指導委員会・コンソーシアム会議・コーディネーターの取組**

- (1) 運営指導委員会
- (2) コンソーシアム会議
- (3) コーディネーター

## **第3章 管理機関の取組**

### **1 管理機関の取組**

- (1) 管理機関の役割と実施計画
- (2) 管理機関による活動実績

## **第4章 本年度の成果と今後の展望**

### **1 本年度の成果**

- (1) 本年度の成果
- (2) 成果概要図

### **2 今後の展望**

今後の展望

## **巻末 参考資料**

## 第1章 学校の概要と本事業に係る本年度の計画

### 1 本校の概要

#### (1) 所在地

〒490-1295 愛知県あま市篠田五ツ藤1番地

#### (2) 設定課程および在籍生徒数(令和7年度4月1日現在)

生徒数	1年	2年	3年	計
地域探究科	40	0	0	40
普通科	160	187	191	538
計	200	187	191	578
学級数	1年	2年	3年	計
地域探究科	1	0	0	1
普通科	4	5	5	14
計	5	5	5	15

#### (3) 学校経営方針

校訓：「和」

#### スクールミッション(教育方針)

- 自ら探究的に学び、物事に積極的に挑戦し、成し遂げることのできる、たくましい生徒の育成を目指す学校
- 自らを律し、他者を思いやる心を持ち、他者と協働して地域社会の発展に寄与しようとする生徒の育成を目指す学校

#### スクールポリシー

##### 1 目指す生徒像(育成を目指す資質・能力に関する方針)

- 他者を思いやる優しさを持ち、地域と自分の未来を拓いていくたくましい力を育成する(対話力・思いやりの育成)
- 個性を伸ばし、自己有用感を高めつつ、学校生活における様々な活動にチャレンジ精神を持って取り組む力を育成する。(実践力・豊かな人間性の育成)
- ICT 機器の活用やグループワークなど、主体的な学びに意欲的に取り組み、活用できる力を育成する。(課題発見力・情報活用力・問題解決力の育成)

##### 2 本校における学び(教育課程の編成及び実施に関する方針)

- 個の学力に合わせた授業展開と教科横断的な学びの実践
- 生徒の主体性を伸ばし、可能性を広げる探究活動を取り入れたカリキュラムの実践
- 地域の課題解決に向けて地域の人とともに行う地域活動の実践
- グループワークなどで協働して研究を行ったり、議論したりする授業の実践

##### 3 入学を期待する生徒像(入学者の受け入れに関する方針)

- 他者を思いやり、他者と協働して様々な教育活動に取り組む生徒
- 地域活動に積極的に参加し、地域に貢献していきたい生徒
- 進学を目指し、自己の可能性に挑戦して、主体的に学習に取り組む生徒

#### 重点目標(スクール・ミッション、スクール・ポリシーの実現)

- 「豊かな人間性と生きる力を身につける」
- 「地域に根差した魅力的な高校をめざす」
- 「行きたい学校・入学して良かったと思える学校をつくる」

#### 合言葉「チャレンジ!」

#### 地域探究科で育てる生徒像

自ら学び 深く考え 物事に積極的に挑戦し 意欲的で「たくましい生徒」

地域探究科で学んだことを活かして、進学先でも生き生きと活躍できる生徒を育成し、潜在能力を開花させたい。

## 2 地域探究科

### (1) 設置の目的(以下は事業実施計画に基づく)

#### 本校を取り巻く状況

愛知県では、本県の教育振興基本計画として、令和3年2月に令和7年度までを計画期間とする「あいちの教育ビジョン 2025－第四次愛知県教育振興基本計画－」を策定した。「ふるさとの魅力やあいちの伝統・文化に学びつつ、技術の進歩に取り組み、社会の発展を支える人材を育む」ことなど、7つの基本的な取組の方向を定めた。

こうした中、本校は、令和3年度に県内に先駆け地域連携センター「美和高マインド」を設置し、地域と学校との連携の在り方を模索してきた。本校が所在する愛知県あま市は、旧海部郡甚目寺町・美和町・七宝町が合併した市政 15 年となる若い市であり、名古屋市のベッドタウンとして近年発展を見せ、人口増加を続けている。あま市役所等の公共機関には本校の卒業生も多く、今後の市の発展を担う旧美和町唯一の県立高校として、地元からの本校や本校生徒への期待は大きい。

本校生徒は、あま市からの通学者が約 30%、大治町・津島市・稲沢市等の隣接する地域からの通学者が約 60%であり、まさにこの地域の未来を担う若者たちである。

#### 地域探究科(地域社会学科)を設置する必要性

令和4年 11 月、愛知県教育委員会は、本校を地域の教育ニーズ対応型中高一貫教育の1校に決定し、公表した。あま市・大治町等近隣市町村と本校による連携型中高一貫教育を令和8年4月に開始し、地域の様々な活動を通じて、生徒が地域の人たちと共に育ち、楽しみながら社会貢献をすることができる、かけがえのない高校を目指すこととしている。中高一貫教育の導入に向け、「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」を親会議とし、「中高一貫教育具体化検討部会」や実務者レベルのワーキンググループにより、中高一貫教育と地域探究科の具体的な在り方を検討する。

現在、本校と連携しているあま市の公共機関や団体に属する地域住民は、若者と地域を結ぶ教育に対して問題意識が高く、高校生への講話や講座にも積極的に参加している。このような地域住民との交流は、地域の課題を自ら考え、周囲の協力を得ながら問題を解決していく、生きる力を持ったロールモデルを直に見る場であり、自ら動いて地域社会をよりよくしようとする姿勢を学ぶ最良の機会でもある。生徒自らの人生の課題を把握し、適応する力を身につける上でも非常に重要であると考えられる。

本校生徒の一部は既に、公共機関等が主催する地域興隆イベント等の運営ボランティアとして地域貢献を果たしているが、学業や部活動を抱える生徒にとって、地域貢献の時間を捻出することが困難なこともあった。今回、地域探究科を設置するにあたり、通常の教科よりも柔軟かつ多様に地域と連携できる学校設定教科を教育課程に取り入れることで、学校と地域の持続可能な連携の仕組みを作り上げることが可能になる。地域と学校が継続して協働するためには、コーディネーター等の人的資源の確保とともに、学校設定教科の開設と地域探究科の設置など、学校全体での取組が必要不可欠である。

あま市も本校も、全国的に見て著名な自治体・学校ではない。生徒の学力も全国的な平均値とほぼ一致する。しかしながら、このような中核的な地域で生活を送る生徒が自らを正しく肯定することで安定し、さらに自立した自己と協働する力によって活性化して勢いづくことは、日本全体の活性化に繋がるものであると考える。生きる力を身につけた生徒を主体に、地域と学校とが結びついて年齢を超えた人の和をつくり、常に革新を続ける地域の先例となることが、本校の地域探究科設置の目標の一つである。

## (2) 地域探究科の特色・魅力

### 当該学科における特色・魅力

本校は令和3年度に設立した地域連携センター「美和高マインド」を核とし、地域密着型の学校として、地域と深く交流してきた。当該学科においては、あま市役所・社会福祉協議会・商工会・NPO 法人等の各機関や地元の小中学校・公立保育園等と連携し、「学生を軸とした地域活性化とは何か」を学校と地域で考え、生徒を主体とした地域興隆イベントの実践や地域住民向け講座等を実施していく。また、連携大学と協働したフィールドワークやオンライン講座を通じ、活動に必要な知識も身につける。これらの活動と地域や大学との協働を通じて、生徒の物事を肯定する力と地域社会の役に立てた経験からなる自己有用感を育て、不安定な時代を生き抜く力である課題発見力・情報活用力・問題解決力・実践力・対話力を育み、思いやりと豊かな人間性を備えた地域の未来の担い手を育成する。当該学科で学んだ生徒が自らの出身地域へその学びを還元することで、あま市のみではなく、その他の地域へと地域興隆の波を広げていく。

### 特色・魅力ある先進的な教育の取組

それぞれの学年を「美を知る1年生」「和をつくる2年生」「未来を拓く3年生」とし、1年次は地域の魅力を探求、2年次は連携機関や大学との協働、3年次は1・2年次の学びをもとに、知識や技術を地域社会に還元していくことをテーマとした教育に取り組む。カリキュラムとしては、各年次に「総合的な探究の時間」4単位と「学校設定教科」を2単位ずつ、合計 18 単位履修する。また、それらを支えるための教科等横断的な学びにも力を入れる。

#### ① 「総合的な探究の時間」

総合的な探究の時間は、グループワークを通じての探究を主とし、環境や産業などの地域資源の発掘、連携大学と協働して地域を学ぶフィールドワークを実施する。その際、周辺地域のみでなく、この地域出身の戦国武将等にゆかりのある他県・他地域の魅力にも目を向けさせたり、この地域に多く在住する外国人の出身国についても探究させたりと、広い視野を持って地域から学ぶことを目標とする。また、地域興隆イベントや小中学生に向けた出前講座の企画等のグループワークも本時間に実施し、課題発見力の養成を目標とする。

#### ② 「学校設定教科」

学校設定教科は、地域の伝統工芸品である七宝焼の一般向け講座運営や広報活動、地域興隆イベントや地元住民向けの実習講座など、実際に地域で活動することを主とする。地域住民との交流を通じて、異年齢とふれ合うことから、思いやりの心や対話力・問題解決力を育むことを目標とする。

#### ③ 「教科等横断的な学び」

総合的な探究の時間や学校設定教科におけるグループワークや地域活動を支える教科を超えた学びを実践する。広報活動に必要な情報活用力や、外国人とコミュニケーションを図るための語学等、実践を想定して指導する。また、環境美化活動を通じて地域の生態系への学びを促進したり、地域活性化の活動に伴い地域の歴史的遺産や関連する人物への知見を深めたりするなど、体験を通じた幅広い学びを提供する。

以上の(1)~(3)を通じ、生徒の物事を肯定する力と地域社会の役に立てた経験からなる自己有用感を育て、不安定な時代を生き抜く力である課題発見力・情報活用力・問題解決力・実践力・対話力を育み、思いやりと豊かな人間性を備えた地域の未来の担い手を育成する。

### (3) 地域探究科での先進的な教育取組

#### 地域探究科における取組の目的・目標

「あいちの教育ビジョン 2025－第四次愛知県教育振興基本計画－」では、基本的な取組の方向の一つである「ふるさとの魅力やあいちの伝統・文化に学びつつ、技術の進歩に取り組み、社会の発展を支える人材を育む」ことについて、「ふるさとに学び、ふるさとを愛する心を育むとともに、生きていく上での羅針盤となる教育を充実させ、社会の激しい変化の中でも自分をしっかりともって、あいちを担っていく進取の精神を育てる」と示している。

こうしたあいちの教育ビジョンを受け、地域探究科での学びを通じて、地域社会の一員としての役割を生徒に認識させ、地域社会との協働を図る。地域社会との協働の中で、生徒が郷土の魅力と自らの価値を認め、自己肯定感と思いやりの心を育み、それらに裏打ちされた生きる力をもつことで、地域の未来をつくる人材を育てる教育を実践することを地域探究科の目的とする。

同時に、生徒の若い力もまた地域の資源であり、学校と地域との連携の下に、若者の視点を取り入れた独自の地域活性化の取組を提案・実行し、高校生主体の地域興隆を図ることを地域探究科の目標とする。

#### 地域探究科における教育を通じて育成を目指す資質・能力

社会の激しい変化の中でも自分をしっかりともって、自らの力で困難を乗り越え、未来を拓くため、以下の7つの資質・能力の育成を目指す。

##### ① 課題発見力

総合的な探究の時間のグループ活動や連携大学との地域探究のフィールドワークを通じて、地域の魅力とともに、地域興隆における課題を発見する力を養う。社会状況の中に課題を見つけ、自らの課題として捉えることの大切さにも目を向けさせる。

##### ② 情報活用力

総合的な探究の時間や学校設定教科における探究活動や調査、地域活動を行う上での情報発信などを通じて、情報活用力を育成する。

##### ③ 問題解決力

地域興隆イベントや出前講座・実習講座を通じて、実際にイベントの企画や運営に携わることで、発見した課題に対する問題解決力を養成する。

##### ④ 実践力

3年間の学びから、自らの課題に対して解決策を考え、自ら実践し、地域に貢献していく力を養う。

##### ⑤ 対話力

グループワークや連携機関・大学とのフィールドワークなど、クラスメートや地域住民との交流を通じて、様々な考えを持つ他者と対話する力を身につける。

##### ⑥ 思いやり

実際に地域住民との交流や異年齢との交流を通じて、多様な他者への理解を深めることで、思いやりの心を育む。

##### ⑦ 豊かな人間性

総合的な探究の時間や学校設定教科における探究を通じて、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心を育む。

## 教育方法等の特色について

### ① 地域との連携

「総合的な探究の時間」では、地域住民を講師とした講話や出前講座等を行い、地域への知見を深める。「学校設定教科」については、市や町、商工会が主催する地域興隆イベントへの参加やフィールドワークを中心とし、地域住民と協働した活動を実施していく。また、地元の小中学校・公立保育園と連携し、本校生徒が地域の子どもたちに教科の基礎を楽しみながら学ばせる講座を開くなど、教科の知識習得と地域社会への貢献を両立させ、教科等横断的・年齢横断的な学びを実現する。

### ② 大学との連携した学び

地域住民との協働を円滑にするため、各連携大学の協力のもと、地域活性化とは何かについてのオンライン学習、大学教授等を講師とした出前授業、連携大学への研修旅行、大学のゼミと協働したフィールドワークなどを実施する。なお、各連携大学へ進学することにより生徒が学びを継続できるよう、高校段階で身につけておくべき知識を共有するなど、高大接続に向けた指導を相互に確認する。

### ③ 校内での教科等横断的な学び

フィールドワークの実践を情報発信するにあたり、地域在住の外国人への対応のために、情報・地理歴史・外国語等の知識は必要不可欠である。フィールドワークを通じて、各教科の学習が生徒自身の日常や将来に有効な学びであることを確認させ、生徒自ら学ぶ姿勢を身につけ、教科からは情報発信技術や翻訳の在り方など、教科書の枠を超えた実践的な学びをフィードバックできるよう工夫する。

【愛知県立美和高等学校】地域社会学科（設置：令和7年度予定）

地域と自分の美しさを知り 人と人の和の力で 未来を拓く生徒を育む

美和高 *Makes Innovators with Neighbors Dramatically*  
～地域とともに 未来を革新する人材を育てる～



あま市PBL活動



小学生向け七宝焼講座

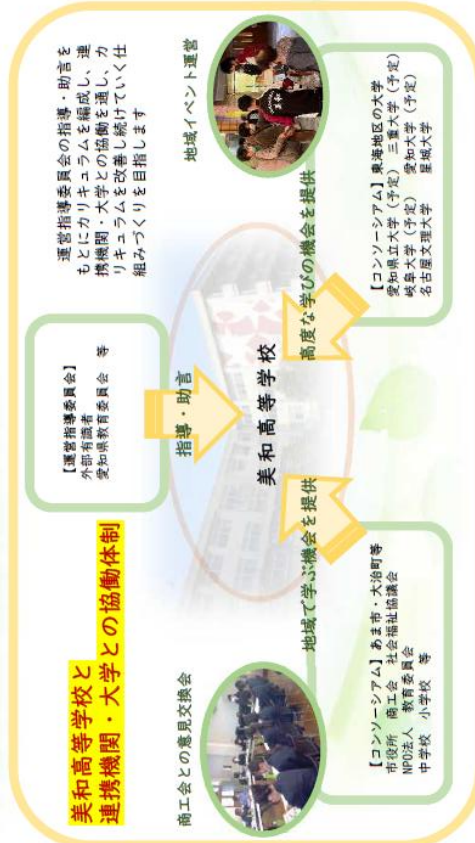
※「美和高マインド」は、令和3年度に設置した地域連携センターの名称であり、「美和高校の地域貢献の精神」を指すとともに「未来の革新者を育てる教育」の意味を含めた言葉です。  
※地域連携センター「美和高マインド」では、地域の代表者とともに年3回の定期会議を行い、高校生と地域でできる地域活性化について検討を繰り返しています。

【設置の目的】

地域と協働し、生徒を軸とした地域活性化に取り組みとともに  
生徒の物事を肯定する力と不安定な時代を生き抜く力を育み、  
地域の未来の担い手を育成するカリキュラムを編成すること

七宝焼のように輝く七つの資質・能力の育成を目標とします

課題発見力 情報活用力 問題解決力 実践力  
対話力 思いやり 豊かな人間性



未来を拓く3年生

和をつくる2年生

美を知る1年生

学校設定科目

3年生・2単位  
・1・3の総合選択講座を開講  
・13の総合選択講座を学び、講座  
※自分が希望する学問分野の基礎を学び、実習講座  
※地域住民へのプレゼンテーションや実習講座を含む

教科等

横断的な学び

3年生  
・総合選択講座指導  
・プレゼン・実習に  
向けた総合的指導  
※情報発信実践・実習  
に向けた専門知識  
の伝達等

総合的な探究の時間

2年生・1単位  
・地域興隆イベント  
に向けての準備  
・小中学校向け出前  
講座の企画・実践

学校設定科目

2年生・1単位  
・地域興隆イベント  
の運営に参画「あま  
つり」・同学生会主催  
「イルミネーション  
フェスタ」

教科等

横断的な学び

2年生  
・出前講座等に向け  
ての教科的な指導  
(例)ドッジボール講座  
⇒実技・応急手当の知  
識等の伝達

総合的な探究の時間

1年生・1単位  
・地域資源探掘のため  
のグループワーク  
・地域の資源を共有す  
る成果発表会  
・連携大学とのフィー  
ルドワーク

学校設定科目

1年生・1単位  
・七宝焼を学ぶ  
・七宝焼講座運営  
・同学生会主催  
「イルミネーション  
フェスタ」による出  
前授業

教科等

横断的な学び

1年生  
・広報活動のため  
の情報処理力育成  
・地域資源の歴史的  
な学び  
・外国人に向けた情  
報発信のための外  
国語学習

【別添様式3】

(4) 地域探究科 事業構想 (ビジュアル資料)

※計画時の地域社会学科から「地域探究科」への名称変更、及び、カリキュラムの単位数変更を予定している。

(5) 過年度成果整理図 ①令和5年度



**【美和高等学校と連携機関・大学との協働体制】**

令和5年度 年3回のコンソーシアム会議 年2回の運営指導委員会を実施

地域で学ぶ機会を提供

【コンソーシアム】あま市、大治町等 外部関係者、外部関係機関 外部関係者、外部関係機関

【連携指導委員会】外部関係者、愛知教育委員会等

【コンソーシアム】東海地域の大学 愛知学院大学(守屋) 聖光大学(守屋) 名古屋文理大学 聖光大学

**【成果と課題】**

**成果**

前年度から継続した小学生向け七宝焼講座に加え、小学生向け校外学習の引率、放課後ことも教室や市民病院とのトリアーシ訓練など、新たな連携先との協働活動に取り組んだ。また、5大学を訪問し、ゼミに参加、ゼミ内容実践のフィールドワーク（地域での調査活動）を実施するなど、生徒の学びを深化する活動を行った。

参加した生徒からは、「地域に貢献できる喜びを感じた」「地域政策に興味を持ち、大学でそれを学びたいと思った」など、前向きな感想が多く聞かれ、生徒の意欲向上に一定の成果があった。

また、連携機関の拡充、コンソーシアム役員の増員など、地域との連携についても強化することができた。

**課題**

新学科設置前の限られた時間数での試行実施のため、公募生徒や部活動生徒による休日や長期休業を使った活動が多かった。今年度試行実施した内容は、新学科設置後の授業時間数とのギャップにより、変更や修正が予想される。授業内で実施する際の、詳細な指導計画の作成が今後の課題である。

別紙様式5

②令和6年度

【愛知県立美和高等学校】地域探究科（令和7年度設置（予定））

地域と自分の美しさを知り 人と人の和の力で 未来を拓く生徒を育む “美和高 Makes Innovators with Neighbors Dramatically”



**【令和6年度の目標】**  
 出前講座・フィールドワーク等の先行実施  
 ・地域住民の出前講座の先行実施  
 ・フィールドワークの先行実施  
 ・改善点の記録と連携機関との共有  
 大学の講座の先行実施  
 ・連携大学のオンライン講座等を先行実施  
 ・ネットワーキング環境の確認  
 ・生徒の理解度及び改善点の確認  
 高大接続連携協定締結  
 ・名古屋文理大学との連携強化  
 ・名城大学と新規の連携協定締結  
 ・名古屋学院大学との新規の連携協定締結  
 職業人講話・観光探究・防災学習を実施  
 ・商工会講師による職業人講話の実施  
 ・観光協会訪問と情報発信の実施  
 ・観光探究（観光協会10周年記念事業）実施  
 ・地域住民による防災講話を含む防災学習の実施  
 中学校訪問・幼稚園・保育園及び小学校との連携学習  
 ・地域探究発表会の実施  
 ・地域と協働したフィールドワークの実施  
 ・地元小中学校との連携協議の実施

**【成果と課題】**  
**成果**  
 例年実施している商工会講師による「職業人講話」に加え、「七宝焼講座」「観光探究」「防災学習」を実施するなど、これまでなかった分野において地域住民による講座のベースをつくることのできた。また、名古屋文理大学に加え、星城大学・名古屋学院大学とも高大接続連携協定を締結した。2年生との共同ゼミを実施するなど、大学との連携も強化し、高度な学びへつなげる環境が整いつつある。  
 地元中学校との連携もスタートし、1年生全員が地域の中学校を訪問した。選択授業や部活動でも地域住民との連携や幼稚園・小学校・介護施設等への訪問を実施するなど、着実に地域で探究活動を行うための基盤ができてきている。  
**課題**  
 今年度の試行をもとに、来年度のカリキュラムを編成している。学期ごとの単元や教材を作成しているが、来年度新学科では学校設定科目と総合的な探究の時間を合わせて「探究」の時間が5時間増加することから、カリキュラムの進捗が想定とされる場が出てくることも予想される。予定外の状況に対して適宜修正を加えていくことが今後の課題である。



地域イベントでの成果発表

### 3 事業の実施計画の概要及び本年度の計画

#### (1) 3ヶ年の実施計画の概要

##### 【令和5年度（準備段階）】

##### ① カリキュラムの研究開発

新学科設置プロジェクトチームを中心に、連携大学や既存の新学科設置校を視察し、地域探究科のカリキュラム案、総合的な探究の時間と学校設定教科の年間指導計画の概要を作成する。また、年3回の美和高マインド定例会議等を通じて、美和高マインド役員や連携大学の専門職員との検討を定期的に行い、学術的知見と地域のニーズを取り入れながらカリキュラム案の修正を行う。

##### ② 地域連携センターの充実

地域連携センターにて新学科についての概要説明を行い、学科設置に向けての役割を明確化する。各連携機関による地域住民のニーズ調査、本校での出前講座やフィールドワーク実践時の講師及び生徒の探究活動に向けた指導・助言を役割の中心とする。また、あま市のみでなく、大治町等近隣市町村からも役員を選出する。

##### ③ 連携大学の拡充

大学と連携したオンライン講座、ゼミと協働したフィールドワーク等の生徒の高度な学びを充実するため、連携先を拡充する。現在、既に本校と高大接続協定を結んでいる名古屋文理大、星城大に加え、地域政策学科等を有する東海地区の大学等との連携を模索していく。

##### ④ 総合的な探究の時間の充実

新学科設置に向けた事前準備として、これまで既実践している地域探究を充実させる。1・2年生を対象に、新学科設置時に実施予定の、地域と連携したフィールドワークの縮小版を総合的な探究の時間内に実施し、問題点を洗い出すなど、より効果的な探究の在り方について試行錯誤を重ねる。

##### 【令和6年度（試行段階）】

##### ① 地域住民の出前講座、地域と連携したフィールドワーク等の先行実施

現行の授業時間内で実施可能な出前講座や地域でのフィールドワークを一部先行して実施する。その際の改善点等を記録し、連携機関と共有する。

##### ② 大学のオンライン講座等を先行実施

連携大学と協力し、オンライン講座等を先行実施する。その際、ネットワーク環境の確認や、生徒の理解度等を確認し、次年度以降の実施に向けた改善を図る。

##### ③ 総合的な探究の時間の深化

前年度までの学びを参考に、小中学生向けの高校生出前講座の一部を先行実施するなど、実践に向けたベースを完成させる。

##### 【令和7年度（設置）】

令和7年度より、地域探究科を設置し、カリキュラムの運用を開始する。1年次は総合的な探究の時間と学校設定教科を中心に地域と連携する。開始後も地域連携センター等を活用して、地域のニーズを把握する機会を継続し、随時改善を図る。

(2) 本年度（令和7年度）の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度美和高プロジェクトチームの立ち上げ</li> <li>・探究基礎講座及び外部講師によるマナー講座の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナー講座の依頼</li> <li>・市役所職員への講座開催依頼</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行政探究の開始(地域探究科1年)</li> <li>・市役所職員による講座の実施</li> <li>・第1回運営指導委員会(今年度の計画についての指導)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回美和高マインド定例会議</li> <li>・第1回コンソーシアム会議</li> <li>・歴史資料館等、歴史に関する施設への訪問受け入れ依頼</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域歴史探究の開始(地域探究科1年)</li> <li>・歴史資料館館長による講座の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学訪問の受け入れ依頼</li> <li>・連携大学との協議開始</li> <li>・既存校視察の受け入れ依頼</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワーク(地域探究科1年)</li> <li>・中学校訪問(2年生全員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣中学校と地域住民への説明会</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学訪問(全学年希望者)</li> <li>・夏季探究特別講座の実施(全学年希望者)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による近隣中学校訪問(新学科説明)</li> <li>・観光協会訪問受け入れ依頼</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光探究の開始(地域探究科1年)</li> <li>・あま市観光協会訪問の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による近隣中学校訪問</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワーク(地域探究科1年)</li> <li>※各自が開発した観光ルートを巡る</li> <li>・観光探究発表会の実施</li> <li>・既存指定校視察(県外)</li> <li>・福祉実践教室(1年生全員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回美和高マインド定例会議</li> <li>・第2回コンソーシアム会議</li> <li>・七宝焼アートヴィレッジとの打合せ開始</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワーク(地域探究科1年)</li> <li>※七宝焼講座運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域探究科1年生による七宝焼講座運営(七宝焼アートヴィレッジ)</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災学習(地域探究科1年)</li> <li>・救急救命講習(地域探究科1年)</li> <li>・大学との共同ゼミ(2年生普通科)</li> <li>・中学校訪問(1年生全員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業人講話講師派遣依頼(商工会)</li> <li>・インターン受け入れ先企業との打合せ開始</li> <li>・市役所防災担当及び社会福祉協議会との打合せ開始</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業探究の開始(地域探究科1年)</li> <li>・職業人講話の実施(1年生全員)</li> <li>・防災学習の開始(普通科1年生)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターン受け入れ先企業との事前打合せ実施</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワーク(地域探究科1年)</li> <li>※希望企業へのインターン</li> <li>・第2回運営指導委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回美和高マインド定例会議</li> <li>・第3回コンソーシアム会議</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果発表会(地域探究科1年)</li> <li>・防災学習発表会(普通科1年生)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果報告会</li> </ul>

## 第2章 実施計画に基づく事業実施報告

### 1 地域探究科の取組

#### 今年度の計画

令和7年度より、地域探究科を設置し、カリキュラムの運用を開始する。1年次は総合的な探究の時間と学校設定科目を中心に地域と連携する。開始後も地域連携センター等を活用して、地域のニーズを把握する機会を継続し、随時改善を図る。

上述の通りの計画に基づき、今年度4月に本校は地域探究科を設置した。ここでは地域探究科のカリキュラムと取組について報告する。

#### (1) 地域探究科のカリキュラム

① 教育課程 本校の地域探究科のカリキュラムは以下の通りである。

令和7年度入学生 教育課程（地域探究科）			学校番号 70 愛知県立美和高等学校				
教科	科目	標準 単位数	第1学年	第2学年	第3学年	計 全	備考
			全	全	全		
国語	現代の国語	②	2			2	
	言語文化	②	2			2	
	論理国語	4		2	2	4	
	古典探究	4		2	2	4	
地歴	地理総合	②			2	2	(ア)2、3年生「日本史探究」「世界史探究」は継続で選択履修する。 (イ)3年生「日本史研究」は「日本史探究」、「世界史研究」は「世界史探究」の選択者に限る。
	歴史総合	②	2			2	
	日本史探究	3		◆ 3	◆ 3	6,0	
	世界史探究	3		◆ 3	◆ 3	6,0	
	日本史研究*	3			□ 2	2,0	
世界史研究*	3			□ 2	2,0		
公民	公共	②		2		2	
	政治・経済	2			2	2	
数学	数学Ⅰ	③	2			2	(ア)1年生「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」は期間履修とする。
	数学Ⅱ	4	1	2		3	
	数学Ⅲ	3			◆ 3	0,3	
	数学A	2	2			2	
	数学B	2			1	1	
	数学C	2			2	2	
理科	物理基礎	②	2			2	
	化学基礎	②		2		2	
	生物基礎	②			2	2	
	物理	4		◆ 3		0,3	
	理科研究*	2			□ 2	0,2	
保健	体育	⑦⑧	2	3	3	8	
	保健	②	1	1		2	
芸術	美術Ⅰ	②	2			2	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	③	3			3	
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4	
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4	
	論理・表現Ⅰ	2	2			2	
	論理・表現Ⅱ	2		2		2	
家庭	家庭基礎	②	2			2	
情報	情報Ⅰ	②		2		2	
地域探究	地域探究Ⅰ*	2	2			2	
	地域探究Ⅱ*	2		2		2	
	未来探究*	2			2	2	
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	3	
総合的な探究の時間		③～6	4	4	4	12	
計			32	32	32	96	

(1) ◆印・□印の科目を「選択科目」とし、それぞれ1科目を選択履修する。

## ② 学校設定教科・科目について

地域探究科開設に伴い、新たに学校設定教科(地域探究)を開講し、以下の通りの単位数で探究活動を実施している。

### ア 「総合的な探究の時間」と学校設定教科(科目)の単位数

探究に係る教科・科目		1年生	2年生	3年生
総合的な探究の時間		4単位	4単位	4単位
学校設定科目	地域探究Ⅰ	2単位	－	－
	地域探究Ⅱ	－	2単位	－
	未来探究	－	－	2単位

### イ 学校設定教科について

学校設定教科については、昨年度(令和6年度)以下の通り申請し、愛知県の承認を得た。

課 程	全日制課程	対 象 学 科	地域探究科
開 始 年 度	令和7年		
当 該 教 科 の 名 称	地域探究		
<b>設 置 の ね ら い</b>			
<p>「地域の未来をつくる人材を育成する」という地域探究科の設置目標のもと、地域と協働し、生徒を軸とした地域活性化に取り組む中で、生徒の物事を肯定する力と不安定な時代を生き抜く力を育むことをねらいとし、当該教科を設置する。教科の目標は以下の通りとする。</p> <p>(1)地域住民の視点を通して地域の歴史、観光、商業、行政等を学ぶことにより、課題発見力、情報活用力及び対話力の伸長を図る。</p> <p>(2)地域イベントの運営や地域住民向けの実習講座などに取り組み、地域住民と交流する中で、問題解決力や思いやりの精神を育む。</p> <p>(3)自己探究課題に取り組み、地域に学びを還元する機会を持たせることで、地域貢献に資する実践力及び豊かな人間性の伸長を図る。</p>			
所 属 す る 科 目 の 名 称	単 位 数		
地域探究Ⅰ	2		
地域探究Ⅱ	2		
未来探究	2		

## ウ 学校設定科目について

学校設定科目については、令和6年度に地域探究Ⅰを、令和7年度に地域探究Ⅱを以下の通り申請している。

### 【地域探究Ⅰ】

科目の名称		地域探究Ⅰ		単位数	2		
指導学年		1年		開始年度	令和7年度		
指導目標		(1)探究の基礎、及び、他者と交流する際の基本的なマナーを理解させ、探究的な学びに向かう姿勢を身につけさせる。 (2)地域住民の視点を通して、地域行政・歴史について学ぶことで、地域の課題を自分ごととして捉えさせ、課題をまとめ発表する活動の中で、課題発見力・情報活用力を育む。 (3)地域住民の視点を通して、地域の観光・商業を学び、高校生が自らの手でできる課題解決策を実施していくことにより、問題解決力・対話力及び実践力の伸長を図る。					
指導内容及び指導計画の概要（各項目の授業時数）							
1 学 期	4月	探究基礎講座・マナー講習	6	3 学 期	10月	七宝焼講座	4
	5月	探究基礎講座	2		11月	七宝焼講座	8
		地域行政探究	6		12月	防災学習	6
	6月	地域行政探究	4		1月	商業探究	4
		歴史探究	4		2月	商業探究	6
2 学 期	7月	歴史探究	4	3月	商業探究	4	
	9月	観光探究	6		1年間のまとめ・発表	2	
	10月	観光探究	4				
使用教材		主たる教材：自作プリント 補助教材：探究ナビBasic(ベネッセコーポレーション)					

### 【地域探究Ⅱ】

科目の名称		地域探究Ⅱ		単位数	2		
指導学年		2年		開始年度	令和8年度		
指導目標		(1)探究活動を通して、地域活性化イベントや地域住民向け講座を企画・運営するための基礎知識と、交流する異年齢の地域住民の特性を学ぶ。 (2)高校生が主体となって講座やイベントを企画・運営し、地域住民と交流する活動を通して、課題発見力・問題解決力・対話力、及び思いやりの心を育む。 (3)地域住民の意見を取り入れながら、地域活性化のために高校生が自らの手でできる課題解決策を実施していくことにより、情報活用力・実践力の伸長を図る。					
指導内容及び指導計画の概要（各項目の授業時数）							
1 学 期	4月	イベント企画基礎	6	3 学 期	11月	福祉探究	8
	5月	イベント企画基礎	8		12月	福祉探究	6
	6月	イベント企画基礎	4		1月	地域活性化イベント準備	4
		中学校訪問	4		2月	地域活性化イベント準備	6
	7月	中学校訪問	4		3月	地域活性化イベント実施	5
2 学 期	9月	子育て支援講座	6		1年間のまとめ・発表	1	
	10月	シルバー講座	4				
		歴史探究	4				
使用教材		主たる教材：自作プリント 補助教材：探究ナビBasic(ベネッセコーポレーション)					

## (2) 学校設定教科「地域探究Ⅰ」及び「総合的な探究の時間」の取組

地域探究科のカリキュラムでは、1年次に「総合的な探究の時間」4単位、学校設定科目「地域探究Ⅰ」2単位、計6単位の「探究」の時間を履修する。「総合的な探究の時間」ではグループワーク等を通じての探究活動（課題の設定・情報の収集・整理・分析）を主とし、学校設定科目では成果発表及び地域での活動（まとめ・表現）を主とする。ここでは、6時間の「探究」の時間を通して、本校の地域探究科で今年度実施した取組を紹介する。

### 【地域探究科「探究活動」年間計画】



## ア 授業の詳細

### ① 探究基礎講座（連携機関：校内各分掌）

#### 【実施時期】

4月～5月中旬

#### 【目的】

「美和高校での困りごと解決策を校長先生に提案しよう！」をテーマとした探究活動を実施する。身近な問題を題材に、課題の設定・情報の収集・整理分析・まとめ表現の探究の流れを辿る活動の中で、探究学習の基礎を身につける。

#### 【授業計画】

	活動内容	時間数	詳細
1	オリエンテーション	1時間	探究の流れ・手法・今回のテーマの確認
2	インタビュー	宿題	保護者・教員・生徒へ「困りごと」インタビュー
3	課題の設定	2時間	インタビュー結果を分析し、課題を設定する
4	情報の収集	3時間	アンケート・校内担当者へのインタビュー 現地調査・WEB検索等
5	整理・分析	3時間	情報を分析し、提案内容をまとめる
6	まとめ・表現	2時間	校長先生へ改善提案をする・ご高評
7	ふり返り	1時間	ふり返り
		計12時間	

## 【内容】

- 1 ペネッセコーポレーションの探究ナビ Basic を使用し、探究学習における「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」について説明する
- 2 宿題を通して、美和高校の職員・生徒及び保護者に美和高校に関する困りごとをインタビュー調査し、校内の問題点を把握する
- 3 インタビューで聞き取った問題点をグループで共有し、各自の興味関心に合わせて、解決を目指す課題を設定する
- 4 設定した課題をもとに、教材を参考にそれぞれの手法で情報を収集する  
(例)校則に関する課題:生徒指導部職員へのインタビュー  
駐輪場に関する課題:現地調査(駐輪場の幅の測定や駐輪状況の確認)  
購買に関する課題:他クラスへのアンケート調査
- 5 収集した情報を整理し、改善策を考え、ロイロノートで発表用資料をまとめる
- 6 美和高校校長・教頭に向け、改善提案を発表し、フィードバックをもらう
- 7 ループリックをもとに探究活動全体へのふり返しを行う

## 【授業の様子】



## 【成果と課題】

地域での探究活動の事前準備として、探究の流れをつかむため、まずは校内の問題に目を向け、解決策を考える探究活動を実施した。グループで話し合いながら活動を進めていく中で、入学後間もないクラスメートとのチームワークが生まれた様子が見られた反面、初めての探究活動であることもあり、収集した情報と解決策に乖離があるグループもあった。ふり返りの際、自分達の主観ではなく、客観的なデータや他者の意見を取り入れて結論を導き出せるようになることを、今後1年間の課題として生徒に提示した。探究の時間を担当する教員団も、探究活動の各段階において、別角度からの見方を提示する声掛けをしていくことが、今後の指導の課題として残った。

## ② 地域行政探究 (連携機関: 総務省中部管区行政評価局・あま市役所)

### 【実施時期】

5月～6月中旬

### 【目的】

「住みやすいまちづくりのアイデアを市長に提言しよう!」をテーマとし、地域行政について考える探究活動を実施する。探究基礎講座で体験した流れを押さえながら、校外へ出て、地域全体の問題を見つめ、高校生が地域のためにできることを考えるきっかけとする。また、地域行政と自分たちの生活との密接な関わりに気づき、行政の在り方や意義を自ら考えるきっかけとする。

※この探究活動を起点に、地域の大人との関わりが増えることから、初対面の相手や目上の人に対する礼儀やマナーについてを最初に学ぶ機会とする。

### 【授業計画】

	活動内容	時間数	詳細
1	総務省中部管区行政評価局職員による講話	2 時間	行政・地域行政と市民の生活との関りについての講話
2	調べ学習	3 時間	市役所の業務内容についての調べ学習・発表
3	あま市役所訪問	2 時間	あま市役所を訪問し、職員の業務内容を聞く
4	課題の設定	2 時間	住民を8つの世代にわけ、それぞれの世代が住みやすいまちをつくるための課題設定
5	情報の収集	3 時間	WEB 検索等を通して他地域の事例を調べる
6	整理・分析	3 時間	得た情報をもとに、市長への提言を考える
7	まとめ・表現	3 時間	市長への提言を PPT にまとめる
8	成果発表会・ふり返り	3 時間	成果発表会・ふり返り
		計 21 時間	+ ICT (PPT 講座) 3 時間

### 【内容】

- 1 総務省中部管区行政評価局職員による講話を受け、地域行政と自分たちの生活との関わりを学ぶ
- 2 地域行政の母体である市役所の業務について調べ、クラス内で発表し共有する
- 3 あま市役所を訪問し、各課の職員から各自の業務についての説明を聞いたり、実際に働く様子を見学したりする
- 4 住民を8つの世代に分け、グループの興味関心をもとに世代を選び、それぞれの世代が困っていること、望んでいることを想定し、課題を設定する
- 5 課題に対し、他地域の事例を調べるなど、情報を収集する
- 6 得た情報をもとに、市長への提言をスライドにまとめる
- 7 最初に講話をいただいた総務省中部管区の職員と保護者を招き、成果発表会を実施する
- 8 各グループの代表生徒8名があま市長を訪問し、提言を行う

### 【授業の様子】



## 【成果と課題】

行政は地域構成の母体でもあり、本校コンソーシアム役員が市役所に多数在籍することから、地域探究科生徒が最初に地域に出て探究するテーマとして、地域行政を設定した。地域行政は自分たちの普段の生活に密接に関わっているが、高校生にはその認識が薄く、探究活動開始以前の段階では、「行政」という響きに難解さを感じる生徒が多い様子であった。WEB画面や教員を通して知る知識ではなく、生徒自身の目で見て理解を深めることが必須であるとの観点から、現場の視察や行政の諸機関の職員と対面することを重視してプログラムを組み立てた。

本校コーディネーターの人脈もあり、総務省中部管区行政評価局職員による行政講座を実施し、ゴミの分別方法や通学路の安全整備といった、毎日の生活の中に当たり前に存在する事柄にも行政が深く関わっていることを認識することができた。また、本校が所在する、あま市の市役所を訪問し、職員から実際の業務内容について直接説明を受けたことで、より身近なこととして行政を捉えることができたようである。

提言をまとめるにあたり、行政の仕組みについての理解不足や、世代を超えた問題の解決策を考える難しさにも直面したが、アンケート調査や身近な大人への聞き取りを通し、自分たちなりの解決策をまとめることができた。

今後の課題として、事前知識の不足を補うため、行政及び地域行政に関する予備授業を社会科に依頼すること、世代を超えた問題について実際にその世代の地域住民の意見を聞く機会を設けることなど、探究を深めるための工夫を考えていくことが挙げられた。また、他のテーマと比べても事前知識が必要な分野であることから、1学期ではなく、2学期以降に地域行政の探究を実施するなど、時期の検討も必要である。

## ③ 歴史探究（連携機関：校内各分掌）

### 【実施時期】

6月～7月中旬

### 【目的】

「あま市発行の「セピア色のあま市」をもとに地域の近代を探ろう」をテーマに、地域の歴史に目を向ける。歴史を知る中で、地域の新たな魅力に気づき、地域への興味・関心を育てる。

### 【授業計画】

	活動内容	時間数	詳細
1	事前学習	2時間	近代・現代の世界と日本の歴史についての講座
2	美和公民館学芸員による講座	1時間	「セピア色のあま市（写真集）」発行の経緯と近代・現代のあま市の歴史についての講座
3	課題設定・取材準備	2時間	各班で調べたい写真の選択と取材を申し込む ハガキの作成・取材内容の決定
4	情報の収集 (フィールドワーク)	6時間	地域住民への取材・現地調査
5	整理・分析	3時間	あま市の昔と今をポスターにまとめる
6	まとめ・表現	2時間	成果発表会（ポスターセッション）
7	ふり返り	1時間	ふり返り
		計 17 時間	+ ICT (PPT 講座) 2 時間

## 【内容】

- 1 社会科の教員による近代・現代の世界と日本の歴史についての講座を受講し、「セピア色のあま市」に掲載されている写真の時代背景を学ぶ
- 2 美和公民館学芸員から講座を受け、「セピア色のあま市」発行の経緯と、写真から見えてくる地域の近代・現代についての歴史を学ぶ
- 3 「セピア色のあま市」から興味のある写真をグループで1枚選び、美和公民館職員及び本校コーディネーターから該当写真の時代背景に詳しい地域住民の紹介を受け、手書きのハガキにて取材を依頼する
- 4 地域住民への取材、及び、写真が撮られた場所の現在の状況などを現地で調査する
- 5 写真を通してわかる地域の今と昔についてポスターにまとめる
- 6 講座を実施していただいた美和公民館学芸員・職員及び取材に対応いただいた地域住民を招き、ポスターセッションによる成果発表会を実施する

## 【授業の様子】



## 【成果と課題】

地域の歴史を学ぶにあたり、行政と同様、紙面やWEBの情報ではなく、地域住民から直接話を聞き、現地を自分の目で見ることに重点を置いたプログラムを組み立てた。「セピア色のあま市」を編集した学芸員の協力を得て、写真提供者や写真の背景に詳しい地域住民と直接交流をもてたことで、あま市在住ではない生徒にとっても、学校が所在する地域への愛着をもって歴史を学ぶことができたようである。

歴史探究については、地域住民への取材と現地調査の実施にあたり、取材場所や現地への移動手段の確認など、事前に生徒と打ち合わせる事柄が多かった。各グループにリーダーを置いたことで、リーダーを中心にスムーズに取材と調査を終えたグループもあったが、慣れない地域の中での移動に戸惑ったグループもあったようである。学校への帰着時間にもグループで差が生じた。清掃の時間等の調整により問題なく1日を終了したが、グループごとに取材する際の校内外での動きを調整する詳細マニュアルの作成が必要である。

## ④ 観光探究（連携機関：星城大学・あま市観光協会）

### 【実施時期】

8月～10月中旬

## 【目的】

「愛知県の『観光まちづくりアワード』に応募しよう！」をテーマに、地域の観光活性化を考える。地域の観光について探究する活動を通し、高校生の目線から地域の観光資源を発掘する。

## 【授業計画】

	活動内容	時間数	詳細
1	星城大学 大学訪問 ・ゼミ体験	6 時間	星城大学を訪問し、地域活性化と観光に関する講座とアンケート調査方法のワークショップに参加(夏季休業中)
2	オリエンテーション	1 時間	観光まちづくりアワードの説明等
3	星城大学 講座	2 時間	星城大学 谷口教授による「地域政策と観光」講座
4	地域の観光についての 課題の設定	2 時間	地域の観光の問題解決策を含んだ観光ルートのテーマを設定する
5	観光スポットとルートに ついての情報の収集	3 時間	テーマに沿った観光スポットを調べ、必須訪問先を選定する
6	観光ルート・工程表作成 (整理・分析)	4 時間	選定した必須訪問先の観光スポットを含む観光ルートと工程表を作成する
7	情報の収集 (フィールドワーク)	6 時間	星城大学の学生とともに作成した観光ルートを回り、問題点を確認する
8	まとめ・表現①	5 時間	フィールドワークをもとにルートを修正し、発表資料を作成して発表する
9	まとめ・表現②	3 時間	発表した内容とフィードバックをもとに書類を作成し、観光まちづくりアワードに応募する
10	ふり返り	1 時間	ふり返り
		計 33 時間	

## 【内容】

- 1 夏季休業を利用して星城大学を訪問し、地域活性化と観光に関するゼミを体験する  
観光探究に関する心構えをさせる
- 2 観光まちづくりアワードの主旨や内容を説明する。また、応募に必要な書類や検討すべき事柄について確認する
- 3 星城大学の谷口教授とゼミ生に来校いただき、地域政策と観光についての講座を受ける  
また、観光まちづくりゼミに参加中のゼミ生から進捗状況の説明を受ける
- 4 既存の観光ルートやあま市の観光ルートマップなどを調べ、問題点を確認し、各グループで地域の観光についてのテーマ(歴史・産業・グルメ、等)を決め、課題を設定する
- 5 各グループで設定したテーマに基づく観光スポットを調べ、必須訪問先を選定する
- 6 各グループでテーマに基づく観光ルートを作成し、取材(フィールドワーク)の工程表を作る
- 7 星城大学の学生とともに、作成した観光ルートを巡り、取材する。問題点などを確認する
- 8 フィールドワークでの問題点を踏まえて観光ルートを修正し、パワーポイントで発表資料を作成し発表する。星城大学の谷口教授からフィードバックを受け、観光ルートを最終調整する
- 9 最終決定した観光ルートをもとに、応募書類を作成し、アワードへ応募する

## 【授業の様子】



## 【成果と課題】

観光探究は、夏季休業中の大学訪問からスタートし、フィールドワークから成果発表会に至るまで、星城大学の谷口庄一教授とゼミ生に長期に渡り伴走いただいた。

夏季休業中に星城大学を訪問し、観光に関する講座とワークショップを実施いただき、2学期開始後にも校内にて地域政策と観光についての講座を実施いただいたことで、観光と地域との繋がりを理解した上で探究に取り掛かることができた。また、フィールドワークに際しては、集合場所で谷口教授のアドバイスを受けた後、同行するゼミ生の指導を受けながら取材活動に取り組んだ。あま市観光協会からあま市のルートマップをご提供いただいたり、取材申し込み先(店舗・施設・あま市役所・寺社仏閣等)に快く取材対応いただいたり、地域からも大きなバックアップを受けることができた。本校地域探究科は、あま市在住ではない生徒が半数を占めるが、こうした大学や地域からの支援を受け、地域への愛着をもって活動に取り組めた様子が見られた。

様々な面からバックアップを受けたことで、一つ一つが充実した活動になったが、反面、観光探究のプログラム作成時に設定していた時間では生徒が検討を重ねる時間が不足し、観光まちづくりアワードに向けた資料をまとめきることが難しかった。観光ルートについても、一部テーマとズれるスポットが含まれていたり、観光スポットに対する理解が不十分な点があったりするなど、しっかりと構想を練る時間や調査を行う時間も不足していた様子であった。

次年度に関しては、調査や検討に必要な時間を確保した上で、星城大学の指導のもと、探究活動に深みが出るようプログラムを修正し、期間を延長した形で観光探究を実施する予定である。

## ⑤ 七宝焼講座(伝統工芸品探究) (連携機関：名古屋学院大学・七宝焼アートヴィレッジ)

### 【実施時期】

10月～11月中旬

### 【目的】

「令和8年度の七宝焼講座・新商品・PR方法を考えよう!」をテーマに、地域の伝統工芸品である七宝焼について探究する。地域の伝統工芸品の魅力を再認識し、次の世代へ七宝焼を継承する一助となる。

### 【授業計画】

	活動内容	時間数	詳細
1	事前学習	1 時間	伝統工芸品（七宝焼）の講座 ※名古屋学院大学 古池先生による講義
2	七宝焼講座 施設見学	2 時間	七宝焼アートヴィレッジを訪問し、七宝焼講座を体験。同時に施設の見学も実施。
3	課題の設定	2 時間	七宝焼の商品開発・PR 方法・アートヴィレッジの施設の利用方法・七宝焼講座について課題を設定
4	情報の収集	2 時間	パンフレットや WEB 等での情報収集
5	整理・分析	6 時間	課題に対する提案内容を PPT にまとめる
6	まとめ・表現	2 時間	成果発表会（プレゼンテーション）
7	ふり返り	1 時間	ふり返り
		計 17 時間	+ ICT（PPT 講座）3 時間

### 【内容】

- 1 名古屋学院大学の古池嘉和教授とゼミ生に来校いただき、伝統工芸品が地域に与える影響と、七宝焼に関する講義を実施いただく。ゼミ生とともに七宝焼の将来を考えるグループワークを実施する
- 2 七宝焼アートヴィレッジを訪問し、七宝焼体験講座を受講し、七宝焼きを制作する。また、七宝焼アートヴィレッジの施設を見学し、展示や工房を実際に目で見て確認する
- 3 「商品開発・PR方法・施設の利用方法・七宝焼講座の運営方法」の 4 つのテーマに分かれ、各グループで課題を設定する
- 4 七宝焼アートヴィレッジ訪問時のメモ、WEB検索等を通じて情報を収集する。必要があれば七宝焼アートヴィレッジを再訪する
- 5 収集した情報を整理し、提案を考え、パワーポイントで発表用資料をまとめる
- 6 名古屋学院大学の古池教授・職員、七宝焼アートヴィレッジ館長に向けて提案を発表し、フィードバックを受ける
- 7 ルーブリックをもとに探究活動全体へのふり返りを行う

### 【授業の様子】



## 【成果と課題】

七宝焼講座については、名古屋学院大学の古池義和教授にご指導をお願いした。伝統工芸品（特に焼き物）に造詣の深い古池教授と七宝焼アートヴィレッジの内山館長の力を借り、伝統工芸品が地域に与える影響、伝統工芸品を残す意義について学ぶところから探究をスタートした。その後、七宝焼アートヴィレッジを訪問し、実際に地域の伝統工芸品である七宝焼に触れる活動を通し、より身近なものとして七宝焼を捉えることができるようになった。

探究のテーマについて、商品や施設の利用方法については様々なアイデアを検討できていたが、既に七宝焼アートヴィレッジにて実施されている七宝焼体験講座の改善や PR 方法については、新しいアイデアを考え出すことに苦労しているグループが多かった。探究のプログラムそのものは、専門家の先生方のご協力により伝統工芸品を学ぶのに最適なものであったが、体験講座の運営や広報活動といった、伝統工芸品以外の部分での知識不足を生徒にどう対応させるか、教員がどのような声かけを行うと効果的かを考えていくことが課題として残った。

※今年度の発表の優秀班については、名古屋学院大学で12月13日(土)に行われた七宝焼に関するシンポジウムの中で発表の場を設けていただき、七宝焼の職人や七宝焼関連の施設関係者、大学教授及び大学生の前で探究の成果を発表した。100名を超える参観者の中で堂々と発表する様子を高く評価いただくことができ、参加した生徒の自信になったようである。

### 【名古屋学院大学での発表の様子】



## ⑥ 中学校訪問（連携機関：あま市立中学校・大治町立中学校）

### 【実施時期】

11月中旬～12月

### 【目的】

「探究」を未経験の中学生に、探究学習の流れと「情報の収集」の方法について伝える。他者に教える活動を通して探究そのものへの理解を深める。また、中学生に向けて高校生が授業を実践することで、プレゼンテーション能力や伝える力を育成する。

### 【授業計画】

	活動内容	時間数	詳細
1	オリエンテーション	1時間	探究の流れの復習・KJ法の確認
3	課題の設定	1時間	中学生に何を伝えるべきかについて課題を設定する
4	情報の収集	2時間	「情報の収集」の方法について確認する 中学生からのインタビューに備え、回答を考える
5	整理・分析	4時間	中学校でのロイロノートの使い方等を踏まえ、授業実践のシミュレーションをする
6	まとめ・表現	4時間	各中学校で授業を実践する
7	ふり返り	1時間	ふり返り
		計13時間	

## 【内容】

連携中学校との協議の結果、本校の1年生と連携中学校2年生が交流し、「探究の流れ」と「情報の収集」について、高校生が中学生へ教える形式の授業を実践することとなった。中学生は、KJ法を使って「進路選択へ向けて聞きたい高校生への質問リスト」をつくり、高校生へインタビューを行う。高校生は中学生へ「探究」における「情報の収集」の手法とKJ法のやり方を伝え、中学生のグループワークを補助しながら授業を実践し、中学生からのインタビューに答えていく。

今回の探究においては、中学生に伝えるべき内容を事前に高校の中で共有し、一緒に中学校を訪問する普通科生徒とともに、授業のシミュレーションを複数回実施してから中学校を訪問した。地域探究科生徒は2回訪問の機会があったことから、1回目の反省点等をふり返り、改善を図った上で、再度シミュレーションを行ってから2回目の訪問に臨んだ。

## 【授業の様子】



## 【成果と課題】

地域探究科生徒については、中学生への説明や活動の指示・時間配分等、50分間の授業を回していく司会の役割を全て担った。教室に教員は存在しているものの、基本的には高校生のみで授業のはじめから終わりまで全ての流れを主導した。

当初は初対面の中学生を相手に授業を行うことに緊張や不安を口にする生徒もいたが、事前に行ったシミュレーションを通して自信を得、当日は堂々と司会をする姿が見られた。また、2回に分けて訪問が行われたことで、1回目の訪問でうまくいかなかった点を次に修正したいという意欲が湧いた様子が見られ、事前に何度も練習する様子が印象的であった。各中学校の先生方からは、「高校1年生生とは思えないくらい堂々としていた」といった感想を多くいただき、高校生にとっては非常に大きく成長する機会であったと考えている。

今回は教員主導で授業の組み立てを行い、高校生が実践したが、今後は高校生も授業のプログラムそのものに関する意見を出し、授業を組み立てる段階から高校生が関わられるよう工夫していきたい。

## ⑦ 商業探究（連携機関：名古屋文理大学・地域の企業・団体等）

### 【実施時期】

1月～3月中旬

### 【目的】

「インターンを通して地域の商業(仕事)を知り、PR動画をつくろう」をテーマに、地域の企業・組織の良さを知り、望ましい職業観を育てる。また、PR動画作成の過程を通し、情報活用力の向上を図る。

### 【授業計画】

	活動内容	時間数	詳細
1	オリエンテーション	3 時間	商業探究の目的の確認・職業調べ・依頼書作成
2	事前学習	3 時間	名古屋文理大学による動画編集講座
3	課題の設定	1 時間	商業探究における課題の設定
4	情報の収集	18 時間	インターン
5	整理・分析	3 時間	PR 動画の構想を練る
6	まとめ・表現	7 時間	動画編集・発表資料作成・発表及び YouTube 配信
7	ふり返し	1 時間	ふり返し
		計 36 時間	

### 【内容】

- 1 商業探究の目的を理解し、地域の商業について調べ、インターン先への依頼文を作成する。
- 2 PR 動画作成の事前準備として、名古屋文理大学メディア化の伊東宣明教授による動画編集講座を受講し、効果的な動画の編集方法を学ぶ
- 3 インターン先企業の情報をもとに、商業探究における課題を設定する
- 4 インターンを実施し、働きながら地域の企業・組織の魅力を知る
- 5 インターンで得た情報をもとに、作成する PR 動画の構想を練る
- 6 PR 動画を編集するとともに、インターン先企業を紹介するスライドを作成し、クラスへ向けて発表する。動画の改善点等のフィードバックを受け、修正し、インターン先企業へ動画を提供する。企業の許可を得た動画は YouTube で配信する。
- 7 ルーブリックをもとに探究活動全体へのふり返しを行う

※インターン受入れ先一覧

### 【成果と課題】

	企業・組織名	業種
1	ひまわり作業所	就労継続支援 B 型事業所
2	明和幼稚園	幼稚園
3	美和図書館	図書館
4	キマタ農園	農業
5	加藤製菓株式会社	製菓業
6	海部東部消防組合	消防署
7	ルネサンス甚目寺	スポーツクラブ
8	美和歴史民俗資料館	博物館
9	西尾張シーエーティヴィ	放送局
10	側島製罐株式会社	製造業

報告書を作成している現在、商業探究は実施途中の状況である。成果としては、本校生徒のインターンを前向きに受け入れてくださる企業・組織が多数見つかったことがある。インターンについては本校初の試みであることから、実施において見つかる問題を次年度以降の解消に向けて動いていくことが本年度の課題である。

### (3) ルーブリック及び評価方法

カリキュラム開発会議及び運営指導委員会の指導を受け、本校の探究活動の時間は以下の通りのルーブリックを指標として評価を実施している。

愛知県立美和高等学校 地域探究科 学校設定教科「地域探究」及び「総合的な探究の時間」評価表（ルーブリック） 地域探究科で育みたい力：課題発見力 情報活用能力 問題解決力 実践力 対話力 思いやり 豊かな人間性 あるべき姿：地域を広い視点で分析できるリーダー 活動できる拠点をつくれるリーダー 地域を巻き込めるリーダー					
育みたい力	評価A	評価B	評価C	評価D	評価E
<b>課題発見力</b> (発問・分析)	他世代や国際的視点に基づく広い視野をもとに状況を正しく理解し判断し、分析した上で課題を設定できる。(広い視野)	地域の状況を理解し、判断し、分析した上で課題を設定できる。(地域の視点)	自分の置かれた状況を理解し、判断し、分析した上で課題を設定できる。(自己分析)	自分の興味関心をもとに、課題を設定できる。(興味関心)	身近な事柄に疑問を持つことができる。(発問のスタート)
<b>情報活用能力</b> (知識・技能)	地域から得た知識を多角的・批判的視点から分析し、ICT技術を駆使し、他者にわかりやすい資料を用いてプレゼンテーションを行うことができる。(他者への情報提供)	地域から得た知識を分析し、ICT技術を駆使し、自ら作成した資料を用いてプレゼンテーションを行うことができる。(情報発表)	必要な情報を適切な情報源(資料・人)から正しく収集し判断し、ICT技術を使ってまとめることができる。(情報判断)	必要な情報を適切な情報源(資料・人)から正しく収集し、ICT技術を使ってまとめることができる。(正しい情報収集)	必要な知識を調べ、資料にまとめることができる。(情報収集)
<b>問題解決力</b> (解決策の提案)	具体的な数値目標や原因分析・修正点を含む解決策を提案することができる。(具体的な解決策の提案)	原因分析・修正点を含む解決策を提案することができる。(解決策の提案)	原因を分析し、解決策を検討することができる。(解決策の検討)	問題が起こっている原因を分析し、修正点を洗い出すことができる。(原因分析)	問題が起こっている原因を考案することができる。(原因調査)
<b>実践力</b> (行動・実績)	自身が提案した解決策を実行に移すことができる。また、地域が必要とする活動に主体的に参加し、生き生きと活動することができる。(主体的な行動)	提案された解決策に対し、自身の役割を理解し、積極的に行動することができる。また、地域が必要とする活動にも自ら参加する。(積極的な行動)	提案された解決策に対し、割り当てられた役割を果たすことができる。(適切な行動)	割り当てられた役割に対し、指示された通りに活動することができる。(役割に基づく行動)	割り当てられた役割を理解することができる。(役割の理解)
<b>対話力</b> (交流・主体性)	異年齢・他文化の住民の特性を理解し、お互いの立場を尊重しながら、自らの意思も伝えることができる。(主体的な交流)	相手の立場を理解し、自分の伝えたい事柄を伝え、積極的に話すことができる。(積極的な交流)	相手の発言を理解するよう努めながら、自分の伝えたい事柄を伝え、活発に交流することができる。(活発な交流)	自分の伝えたい事柄を正しく伝えることができる。(情報発信)	必要な事柄を聞き取り、伝えることができる。(情報交換)
<b>思いやり</b> (他者への理解)	異年齢・他文化の住民の特性を尊重し、お互いに心地よい交流ができるよう努めることができる。(適切な行動・リーダーシップ)	相手の立場を理解し、適切な発言をし、必要であれば補助する行動ができる。(他者への配慮・チームワーク)	相手の立場を理解し、適切な発言をすることができる。(他者への理解)	相手の発言の背景にある状況を理解しようとする。(状況把握)	相手の状況を把握しようとする。(状況把握)
<b>豊かな人間性</b> (全般)	オープンマインドをもち、他者を思いやりつつも自身のやるべき課題を認識し、自ら解決に向けて動くことができる。	地域社会全体を見渡せる視野をもち、周囲を思いやりながら積極的に行動することができる。	活動する地域の中で、周囲を思いやりながら行動することができる。	普段から交流のある組織・団体の中で、周囲の様子に気を配りながら行動することができる。	限定された組織・グループの中で、周囲と協力して必要な行動をすることができる。

また、上記のルーブリックによる5段階評価とは別に、評価ツールの AiGROW を採用し、定期的な受検と、探究力についての面談を学期ごとに実施し、生徒の探究力の育成を図っている。

なお、前述のルーブリックは3年間の指標として使用しており、探究活動の単元ごとに個別のルーブリックも作成している。各学期における5段階評価については、単元ごとのルーブリックをもとに、生徒の活動の様子・提出物・発表資料・発表の評価等から総合的に評価している。以下に探究基礎講座で使用したルーブリック及び発表評価シート・生徒へのフィードバック表を例として掲載する。

【探究基礎講座用ルーブリック】

		評価基準(5点満点)					評価素材
評価 A (3年間の目標)		5	4	3	2	1	
育みたい力							
課題発見力 (発問・分析)	他世代や国際的視点に基づき広い視野をもとに状況を正しく理解し判断し、分析した上で課題を設定できる。(広い視野)	アイデアマップなどを活用し、3年間の目標となる課題やグループで探究するのに適切な課題を設定することができた。	アイデアマップの方法を理解し、課題を設定することができた。また、グループの課題設定にも協力した。	自分でアイデアマップを書き、課題を設定することができた。	周囲の協力を得て、課題を設定することができた。	期限までに課題の設定ができなかった。	アイデアマップ+取組した課題 グループで設定した課題(文)
情報活用力 (知識・技能)	地域から得た知識を分析し、ICT 技術を駆使し、他者にわかりやすい資料を用いてプレゼンテーションを行うことができる。(他者への情報提供)	文字だけでなく、図や表を使い、発表を聞いた人から内容がわかりやすいと評価されることのできた。	発表を聞いた人が、伝えたい内容を理解できるスライドを作成することができた。	見栄えのよいスライドをつくることのできた。	スライドをつくることのできた。	期限までにスライドをつくることができなかった。	1人1スライド(個人スライド)
問題解決力 (解決策の提案)	具体的な数値目標や原因分析・修正点を含む解決策を提案することができる。(具体的な解決策の提案)	数値や原因を考慮した解決策を提案することができた。	数値や原因を考慮した解決策を提案することができた。	原因を考慮した解決策を提案することができた。	解決策を提案することができた。	期限までに解決策を考えたことができなかった。	グループ発表の根拠資料 (グループで同一の評価)
実践力 (行動・実績)	自身が提案した解決策を実行に移すことができる。また、地域が必要とする活動に生き生きと参加し、主体的に活動することができる。(主体的な行動)	グループで考えた解決策を、自信を持って実行し、発表することができた。	グループで考えた解決策を、相手に聞き取りやすい声量で発表することができた。	グループで考えた解決策を、相手に聞き取れる声量で発表することができた。	グループで考えた解決策を発表することができた。	発表用の資料をまとめ終えることができなかった。	グループ活動の様子 発表の根拠
対話力 (交流・主体性)	異年齢・他文化の住民の特性を理解し、お互いの立場を尊重しながら、自分の意思も伝えることができる。(主体的な交流)	インタビュー相手やグループメンバーの立場や意見を尊重しながら相手と対話することができた。	インタビュー相手やグループメンバーの意見を聞きつつ、自分の意見を述べることであった。	インタビュー相手やグループメンバーと問題なく対話できた。	必要ない会話をすることができた。	周囲とあまり会話しなかった。	インタビュー課題(取組記録) グループ活動の様子
思いやり (他者への理解)	異年齢・他文化の住民の特性を尊重し、お互い心地よい交流ができるよう努めることができる。(適切な行動)	複数のグループメンバーから困っているときに助けを求めらることを評価された。	グループメンバーから困っているときに助けを求めらることを評価された。	自分なりに相手を助けようとする努力ができた。	グループの活動に参加できた。	グループ活動に参加できなかった。	グループ活動の様子 他者への声掛け (グループワーク評価シート)
豊かな人間性 (全般)	やりつつも自身のやるべき課題を認識し、自ら解決に向けて動くことができる。	複数のグループメンバーからリーダーシップを発揮したと評価された。	グループメンバーからリーダーシップを発揮したと評価された。	積極的にグループ活動に参加することができた。	グループの活動に参加できた。	グループ活動に参加できなかった。	グループ活動の様子 他者への声掛け (グループワーク評価シート)
1年1組( )番氏名( )							
【感想メモ】							

## 【発表用評価シート】

**探究基礎講座 最終発表 評価用紙**

1年1組( )番 氏名( )

**皆さんの評価で、次回の探究の深さが変わります。しっかりお互いを評価しよう！**

グループ	評価指標	点数	メモ
グループ( )	スライドの見やすさ	5・4・3・2・1	memo
	発表の聞き取りやすさ	5・4・3・2・1	
	内容のわかりやすさ	5・4・3・2・1	
	良かった点		
	改善点		
グループ( )	スライドの見やすさ	5・4・3・2・1	memo
	発表の聞き取りやすさ	5・4・3・2・1	
	内容のわかりやすさ	5・4・3・2・1	
	良かった点		
	改善点		
グループ( )	スライドの見やすさ	5・4・3・2・1	memo
	発表の聞き取りやすさ	5・4・3・2・1	
	内容のわかりやすさ	5・4・3・2・1	
	良かった点		
	改善点		
グループ( )	スライドの見やすさ	5・4・3・2・1	memo
	発表の聞き取りやすさ	5・4・3・2・1	
	内容のわかりやすさ	5・4・3・2・1	
	良かった点		
	改善点		
グループ( )	スライドの見やすさ	5・4・3・2・1	memo
	発表の聞き取りやすさ	5・4・3・2・1	
	内容のわかりやすさ	5・4・3・2・1	
	良かった点		
	改善点		
グループ( )	スライドの見やすさ	5・4・3・2・1	memo
	発表の聞き取りやすさ	5・4・3・2・1	
	内容のわかりやすさ	5・4・3・2・1	
	良かった点		
	改善点		

## 【グループワーク評価シート】

**愛知県立美和高等学校 地域探究科 1年生 探究基礎講座 グループワーク評価シート** 1年1組( )番 氏名( )

課題	こんな力を発揮していた人	1人目(必須) ※フルネームで記入!	2人目(任意)	3人目(任意)
課題発見力 (発問・分析)	・自分にはなかった新しい視点で課題を見つけた。 ・みんなが気づいていないところに気づいていた。	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:
情報活用力 (知識・技能)	・とても美しいスライドをつくっていた。 ・タブレットで見たこともない技術を使っていた。	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:
問題解決力 (解決策の提案)	・とても参考になる実践例や根拠を見つけてきた。 ・有効な解決策を提案してくれた。	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:
実践力 (行動・実績)	・物おせずインタビューや現地調査を行っていた。 ・堂々と発表していた。	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:
対話力 (交流・主体性)	・グループワークやインタビューの際、周りの状況をよく見ながら会話をしていた。	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:
思いやり (他者への理解)	・困っているときに助けてくれた。	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:
豊かな人間性 (全般)	・今回の活動でリーダーシップを発揮していた。 ・この人のおかげで今回のグループはうまくいった!	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:	氏名: 具体的に:

【記入例】

氏名:地域 太郎さん  
具体的に:データ分析のときにエクセルを使いこなして資料をつくってくれた!/何をしたいかわからないときに声をかけてくれた。等

【フィードバック表】※2グループ分の例

探究基礎講座 グループ① フィードバック表			
	校長先生	教頭先生	クラス平均
スライド		4	4.6
発表		4	4.4
内容		5	4.8
<b>良かった点</b> ・前置きがあるのがよかった。表などを使っていてわかりやすかった。 ・おもしろい、わかりやすい。ハードルが上がった。 ・面白味があって内容もわかりやすかった。 ・聞きやすかった。 ・スライドに頼らず、自分たちの言葉で工夫をしていてわかりやすい。 ・スライドが見やすく、内容もわかりやすかった。 ・明るい、聞き取りやすい。 ・シャツの写真が根拠がしっかりしていてすごいなと思った。 ・導入がよい。さまざまな根拠から理由を挙げた。 ・紙を見ずにしゃべっていて、とても詳しい内容だった。 ・前置きがおもしろくて、話を聞きたいと思える。 ・明るい雰囲気で見ている面白かった。 ・青木くんの声の大きさとトーンがどても聞き取りやすかった。データを使っているところもいい。 ・画像と文字のバランスがよくて、内容がよくわかった。 ・データが使われていたり、聞く人が楽しめるような工夫がほどこされていてよかった。 ・自分が経験したことをもとに話を進めていてよい。 ・笑いを取りながら話の芯を通して話している。 ・青木がおもしろかった。シャツの色ごとの温度の図が大きくてわかりやすかった。 ・最初の「突然ですが」がめっちゃ面白かった。グラフやメリット・デメリットを入れているのもよい。 ・私服だけじゃなくって体操服も提案に追加された！			
<b>改善点</b> ・話している人とスライドがかぶっていてときどき見えなかった。 ・最後のまとめがあいまいだったから、もう少しまとめた方がよい。 ・ちょっと聞き取りづらい声の人もいた。 ・文字が少し多いかも。 ・スライドの色が白だともっと見やすかった。 ・スライドの背景と文字が同系色のときがあり、少々見にくかった。 ・少し聞き取りづらいところがあったので、はっきりしゃべることを意識するといいかも。 ・緑の字が見えなかった。			
<b>総評</b> 提案内容、スライドの構成、発表において、クラスからの評価が最も高いグループでした。導入から発表の構成もよかったです。改善点としては、発表時の立ち位置にも気を配ることで、投影されたスライドと人が重なることがなくなり、聞き手からスライドが見やすくなります。立ち位置、声の大きさ・話すスピードをグループで揃えられるようになるとパーフェクト。			

探究基礎講座 グループ⑦ フィードバック表			
	校長先生	教頭先生	クラス平均
スライド		4	4.2
発表		3	4.3
内容		3	4.4
<b>良かった点</b> ・運用期間を設けているところ、期間が具体的にいい。 ・発表がわかりやすかった。 ・条件を設けているところがよかった。 ・お試し期間を設けることはすごいと思った。 ・自分もスマホは使いたいから全体的によかった。 ・スライドに画像などたくさん貼ってあってわかりやすい。 ・スライドがよくて、発表が聞き取りやすかった。 ・必要な文字がはっきりして見やすかった。 ・文字が大きくて見やすかった。主張がわかりやすくていい。 ・提案の内容がわかりやすかった。 ・スマホをOKにするなどなんがおきるのかも話されていてわかりやすかった。 ・対策ちゃんとしてよかった。 ・聞き取りやすかった。実際の写真を使ってよかった。 ・文字と画像のバランスがよかった。声も聞き取りやすかった。 ・試用期間を設けるという提案がよかった。スライドも見やすい聞き取りやすく改善点がない。 ・実現しやすくていい提案だと思った。伝えたいことがわかりやすかった。 ・悪いところがあったらそれをどうするかまで考えていていいと思った。			
<b>改善点</b> ・先生の目の前で電源をきるのがめんどくさいかも。一斉に切る？ ・ときどき声が小さくなっていた。 ・トラブルが増えるから、先生は大変になるなと感じた。 ・デメリットがあまり考えられていなかった。 ・空白の部分が気になった。 ・スライドにもう少し色をつけたりできるといい。 ・アンケートを使用してみてもいいと思う。 ・試用期間はもう少し短くてもいいかも。 ・ジェスチャーなどを入れてもいいと思う。			
<b>総評</b> 欠席者がいる中でも役割を分担し、きちんと発表することができました。実際にスマホを使用している写真を用いることで、スライドにも他のグループにはない個性を出すことができました。スマホの使用、という現行の規則に反する内容のため、提案を考えることが難しい一面もありましたが、教員の立場からも客観的に考えていくことで、今後の実現性が高まります。行き詰った場合は、視点を変えて考える練習を今後も続けていきましょう。			

【成果と課題】

提出物・活動への取組・成果物・発表の様子等の教員視点での評価と同時に、テーマ別のルーブリックを使用した自己評価と、グループメンバーおよびクラスでの相互評価を実施した。自己評価は参考程度とし、成績の評価には使用していない。相互評価に関しては、評価した人数・評価者から与えられた平均点等を成績評価の参考とした。また、各テーマで連携した機関の職員及び大学の教授に、成果発表会の参観と評価をいただいたため、専門的観点から、これらの数値も成績評価の参考とした。

評価の課題は、生徒間の仲が深まるほど相互評価の得点も高くなってしまふこと、外部機関からも温かい視線で高い評価をいただくことが多いことから、教員以外からの評価では、全体的に数値が高くなる傾向があることであった。探究の時間に関しては、担当する教員が5名いるため、教員間で評価の差異がないよう、ルーブリックを事前に共有し、評価基準を統一して評価することも必要である。生徒間の相互評価及び外部機関からの評価が、より明確な視点をもって行われるよう、評価シートの形式や文言のあり方に修正を加えていくことを次年度の課題としたい。